

1 審 議 会 名	平成 3 0 年度（第 6 期）第 4 回上田市上下水道審議会
2 日 時	平成 3 1 年 1 月 2 9 日 午後 2 時から午後 3 時 5 0 分まで
3 会 場	真田地域自治センター 3 階 講堂
4 出 席 者	金井委員、小林委員、高寺委員、高橋委員、田中委員、堀内委員、本間委員、 松田委員、松本委員、山口委員、山寺委員、山本委員
5 市側出席者	竹花上下水道局長、城下経営管理課長、滝澤サービス課長、 小井土上水道課長、三浦下水道課長、越浄水管理センター所長、 藤極丸子・武石上下水道課長 下水道課 藤井課長補佐兼下水道維持係長、田中課長補佐兼下水道建設係長、 下水道建設係依田主査 (以下経営管理課) 黒岩課長補佐兼経理担当係長、増田補佐兼経理担当係長、 青井庶務係長、庶務係清水主査
6 公開・非公開	☒ 公 開 ・ ☐ 一部公開 ・ ☐ 非公開
7 傍 聴 者	1 人 記者 0 人
8 会議概要作成年月日	平成 3 1 年 2 月 1 日
協 議 事 項 等	

1 開会

2 会長あいさつ

- ・ 前回の審議会で「上田市下水道ビジョン」の原案の説明があり、「上田市水道ビジョン（案）」とあわせて審議いただいた。審議会後も多くの意見質問をいただいた。本日はいただいた意見・質問に対する回答と市民の方から寄せられたパブリックコメントについて含めて、水道・下水道ビジョン（案）について審議を進めていきたい。

3 議事

(1) 水道ビジョン（案）について

- ア 水道ビジョン（案）・下水道ビジョン（案）の意見・質問等に対する回答について
○事務局より資料 1 に基づき前回審議会等での意見・質問等に対する回答について説明

- ・ 委員からの意見・質疑応答は以下のとおり。

(委 員) 小諸市のような官民共同企業体をつくって運営するということは、これから高齢化社会になっていく中で、働き方の問題にも関係してくると思うが、完全に民間に業務を委託していく計画で進める方法と官民共同企業体をつくってある程度コントロールできる形でやっていく方法と選択肢があると思うが、市はどのように認識しているか。

(事務局) 小諸市の官民共同企業体の母体となっているのが、「水 ing」（親会社は荏原製作所）である。いろんな選択肢があって、どの選択肢がいいのかは各事業体の判断になるのではないかと考える。今回の小諸市の場合は末端給水と言われる、各個人のお宅まで給水していく事務を一貫して官民共同企業体で行っていく全国で初めてのケース。「水みらい」というのも広島で立ち上げ水みらいとしては全国で二つ目の例となる。用水供給事業として浄水場で水を作ってそれを他の水道事業体に 1 立米いくらかという形で売って、他の水道事業体はお金を払って水をもらったものに対して末端給水を行っていく形式のところもある。県内だと松本市、塩尻市は県の用水供給事業から水を買って給水している。用水供給事業は水を作るだけの事業なので、割と業務的には幅が限られている。こういったところに目を付けて水みらいで取りまとめる形で、水 ing が最終的に会社を作り、ある程度

収入が一定するという中で始めた事業である。今回それがどの程度成功するのかはなかなか難しい問題があると思う。小諸市は周りに佐久企業団という小諸市の一部を給水している大きな企業団がある。ここと一つの広域的な統合という選択肢もあったのではないかという中で、他市、他事業体との連携というものがなかなかうまくいかない中でやむにやまれず今回こういった形を選択したものと聞いている。いろいろな選択肢があって、どの選択肢がいいのかは正直分からない。それぞれの事業体の判断の中で選択していくものと認識している。

(委員) 要望であるが、例えば森林組合というのがあり、水というのは自然界からいただくしかなく、それが命の水になるわけで、個人的な考えだが地域全体を活性化できるような方法を是非目指してほしい。

都市集中ではなく自然のある地方を活かす方向のためにも、森林組合等地域の良い資源があるので、それらの資源を活かしていく方向で人材もその中で育て、高齢者にも働いてもらうというような方向を目指してもらいたい。

(事務局) 地域の自然を活かして、その中で人材も活かしてというご意見を頂戴した。上田市の水道事業は水道ビジョンの中でもふれているができるだけ自然に近い水を下流域に落として経費削減が一番の理由であるが、それ以外に地域の湧水をできるだけ下流域の皆さんにも配っていく。最初の投資は大きくなるが、100年、150年と考えた場合、非常に大きな財産ということで簡水統合整備事業をすすめている。群馬県境にある湧水水源で非常に良質で雨が降っても未だかつて濁ったことがなく、地下からわんわんと湧いているような非常に良質な水源であり、もちろんそのままでも十分飲める水である。これを法律上必要な塩素消毒をして下流域へ配りながら、水源を将来にわたって上田市の水という形で出していこうと事業をすすめている。

人材育成は非常に大きな課題であるが、今後検討しながらすすめていきたい。

(委員) 数日前に東京都が民営化しないとコメントしたとの話を聞いた。雫石の関係は特異な事情があつてこういった問題が発生したと思うが、上田市がそこに関連するかどうかは当てはまるかは分からないが、東京都は玉川上水や浄水場がいくつもあり、埼玉にも川がたくさんあり水量は十分あるところで、経営そのものも相当お金もあり民営化の入る余地はないと水に関しては都民の皆さん安心してくださいといったコメントも出ていた。やっぱり安心するのはお金があるところだなと感じたが、上田市も水が豊富なところであり、技術者が非常に高齢化してきていて将来が危ぶまれるということだが、職員には努力してもらい、引継ぎ等しっかりとしてもらうことを審議会として要請したい。一人前にはすぐにはなれないので、できるだけ専門的な知識等を新しい人に伝え、中堅の職員はベテラン的技術の習得をするなどいろいろな努力をしていただきたい。

(事務局) 上田市の水道事業運営そのものを民間企業に委ねることは現段階においては考えていない。技術の継承や職員をしっかりと育てていくことは非常に大きな問題であり課題でもあるので検討し鋭意努力していきたい。

イ 市民意見募集手続きの結果について

○事務局より資料2に基づき市民意見募集手続きの結果について説明

・委員からの意見・質問なし

ウ 水道ビジョン（案）の訂正について

○事務局より資料3に基づき水道ビジョン（案）の訂正について説明

・委員からの意見・質疑応答は以下のとおり。

(委員) 以前要望した水道ビジョン（案）の用語解説を作成いただき感謝する。

(委員) (水道ビジョン（案）の) 50 ページの武石地域の施設最大稼働率の推移の円グラフ（40年後）の色が違うのではないか。

(事務局) ご指摘のとおり間違いである。修正する。

【休憩】

(2) 下水道ビジョン（案）について

ア 水道ビジョン（案）・下水道ビジョン（案）の意見・質問等に対する回答について

○事務局より資料 1、資料 4 に基づき前回審議会等での意見・質問等に対する回答について説明

・委員からの意見・質問なし

イ 市民意見募集手続きの結果について

○事務局より資料 2 に基づき市民意見募集手続きの結果について説明

・委員からの意見・質疑応答は以下のとおり

（委 員）（資料 5 中の）質問 4 と 5 について質問者の意図が理解できないが、市としてはどのように捉えたのか。

（事務局）市内 26 か所の農業集落排水施設において汚泥の引き抜き作業がある。それらは一般廃棄物処理業者が携わっている。農業集落排水施設が公共下水道の管として繋がれると、それらの作業が必要なくなってくるために出た意見と考える。

（委 員）農業集落排水施設から出る一般廃棄物を処理業者が片づけていたが、公共下水道につながることで公共下水道の処理場の方に流れていくということか。

（事務局）そのとおりです。一般廃棄物処理業者の携わる部分がなくなってくるという心配からの意見と考える。

水道ビジョン（案）・下水道ビジョン（案）に対する全体を通しての意見・質問

・委員からの意見・質疑応答は以下のとおり。

（委 員）業者が山の森林を切り開いて太陽光発電をしようとする場合、水というのは森林から来るので森林自体の保全ということが絡んでくる。そうすると水道事業にも関わってくる。また、松枯れ病で山村では困っているにもかかわらず、対策は後手後手に回っている。松が枯れ山が荒れれば保水力が落ちるということというのは水道事業にも関わってくる。こういう問題に対し、市としてどのような取り組みをしているのか。また、市議会ではどんな取り組みをしているか。市全体のビジョンとして将来どういうことを構想しているから上下水道ビジョンに反映されてきているのか。

（事務局）太陽光発電に関する開発について、上下水道局にも特に水道について影響があるのではないかとこの指摘はある。水道ビジョン（案）の 29 ページに水道水源の保全ということで水源地として流水水源、表流水の水源（川から取っているものは記載していない）、主に湧き水水源、井戸水源といったそのまま塩素消毒して飲めるといった箇所の分布と山がどういった指定区域になっているのかを示している。山林の開発で特に太陽光もあるがその他にも開発されている。多くは保安林として国、県の指定とされている。開発が原則不可能な状況であるが、開発する場合は国、県の届け出をし、そこでの審査を経てとなる。その他に上田市の武石地域に水道水源保全地区（県指定）がある。やはり開発には国、県の届出等が必要。水道水源に関しての山林の開発というのはある程度こういった形で縛りがされている。太陽光発電はむしろこういった山奥というよりもわりと市街地に近い山林でとなる。こういったところで直接水道水として影響を受けるとすれば依田川、神川等そういった川に開発されたことによる土砂災害等が懸念される。上下水道局でも検討を進めているところだが、当面水道の方は湧き水水源については保安林、水道水源保全地区という形で制限がかかっているということで考えている。

（委 員）松枯れによる山林が荒廃してきている地域がある。武石では水道水源保全地区として松枯れ対策を

親身にやっているところもあるが、それ以外の市街地に近い山林でも松枯れが進んできた。それは水源とかに影響があるように感じるが、それに対する働きかけはしなくても大丈夫か。

(事務局) 松くい虫による松枯れ被害が広範囲に広がっていることは聞いている。ただし、今のところ影響はないので、特にそれに対する水道水源と供給のことについては検討していない。

(委員) 下水道ビジョン(案)の77ページの下水道の課題に老朽化として3つ課題(①早期に整備された施設の老朽化の進行、②ライフサイクルコストの最小化や投資の平準化が求められている、③老朽管や雨水の侵入等による不明水の解消)があるが、これらに対し今後どのように対応していくのか。

(事務局) 下水道ビジョン(案)のいくつかの課題のうちの一つとして老朽化があるが、84ページにおいて「事業の適切なマネジメント」として記載している中で、「5.1 アセットマネジメント」人、物、金ということになるが、「5.1.1 道路陥没事故の未然対策」以降も整備、管理、改築、不明水対策等記載している。老朽化の部分と耐震化(地震に係る)部分と並行して行わなければいけないという課題があり、調整を図りながら今後10年で持続可能なものにしていきたい。また、89ページに「5.1.3 整備、管理、改築・更新の一体的推進」の中で指標・目標として下水道管路長寿命化計画策定、下水道ストックマネジメント計画策定ということで計画は策定済みであったり策定中であるが、今後年10億程度はしっかり投資をして更新をしていかないといけないということで盛り込んでいる。不明水対策についても92ページで不明水箇所調査、対策計画の策定及び実施ということで現在は調査中。部分的に管路の耐震化対策は行っているが、不明水の対策は経営に関わる部分もあるので現在行っている調査継続と対策の実施を今後も進めていきたい。

(委員) 危機管理上、優先して行っていないと長期ビジョンという問題ではなく、日々行っていく必要性があるのではないかと懸念している。

(事務局) 上田終末処理場も設置から50年を迎えるという中で、しっかり投資をしながら施設を適切に管理し、投資していきたい。

(委員) 下水道に関して、施設の共同化をメインに進めていくという印象だが、水道も千曲川やその支流の水を利用しているが、ごみ処理問題とか川への不法投棄ゴミを流すといった問題も出てきているが生活環境課との連携ということをビジョンに記載しているか。地域の水は地域で守るといった観点で地域住民が守る時代が来ているというような住民の意識喚起をビジョンに盛り込むことも要望したい。

(事務局) ビジョンの中で使用されている市民の皆さんが守るという視点については読み取れる部分があるか確認する。外国籍の方も住んでおり、下水道の使い方も国によって違うのか、管理していく中でもいろんな問題が出てきている部分もあるので、反映できるかは宿題としたい。

4 その他

・委員からの意見・質問なし

○事務局より事務連絡

次回審議会日程等について

5 閉会

以上